

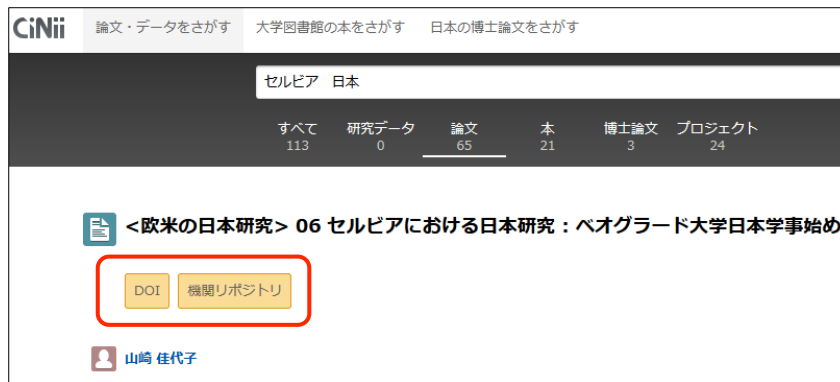
3. シチュエーション2： 論文データベース検索結果から



続いて、2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法をみてみましょう。

本文リンクボタンをチェック

例：CiNii（サイニィ）Research の検索結果画面



19

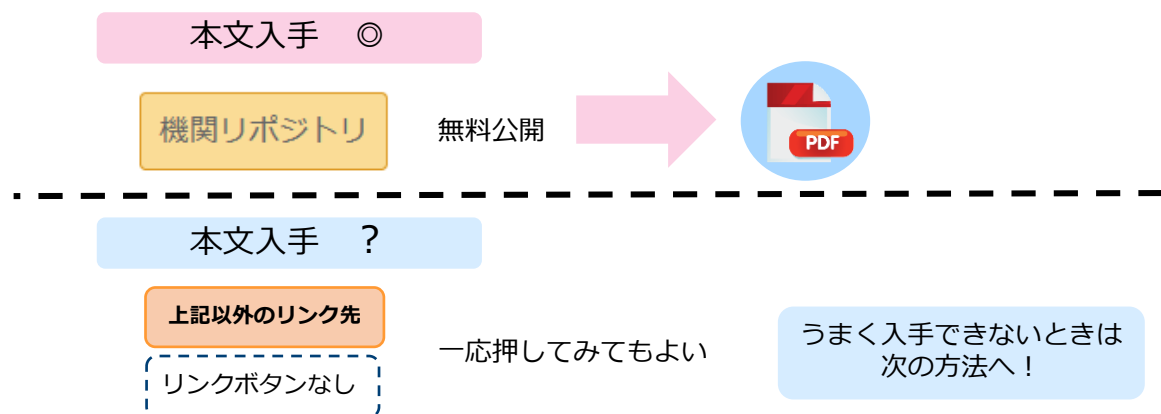
これは、日本語論文を探すときによく使われるデータベース、CiNii Researchの検索結果画面です。

CiNii Researchにはこのように、オレンジ色のリンクが付いていることがあります。

例えば、右側の「機関リポジトリ」というリンクをクリックすると、出版元のWebサイトについて、論文のフルテキストがPDFで入手できます。一番簡単な方法です。

本文リンクボタンについての注意

CiNii Researchの場合



20

ここで一つ注意してもらいたいことがあります。

CiNii Researchに限らず、各種データベースでは論文フルテキストへのリンクボタンが表示されています。

ただ、こうしたボタンはデータベース側が機械的に表示させているもので、大阪大学の所蔵状況を参照しているわけではありません。つまり、リンクボタンをクリックしてもフルテキストが利用できないことがあります。

逆に、阪大で利用できるものにもリンクボタンが付いていないことがあります。

ではどうすればよいのでしょうか。

実は、阪大で論文フルテキストが手に入るかどうか簡単に分かる方法があります。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

検索結果に表示されている以下のボタンをクリック 例

The diagram illustrates the process of checking if a journal is available at Osaka University (Osaka U) through various databases. It shows four main categories of search results:

- CiNii Research, JDreamIII, Web of Science, Scopus, MEDLINE etc.:** A button labeled "Uosaka" is shown next to the database names.
- CAS SciFinder:** A "Full Text" button is shown, with an arrow pointing to "Uosaka Full Text Finder".
- Google Scholar:** A link "[PDF] nii.ac.jp Full-Text@大阪大学/Uosaka" is shown. To the right, a screenshot of the Google Scholar settings menu is displayed, with a red box highlighting the "Full Text" option under the "Library Links" section. Below the screenshot, text reads: "設定 > 図書館リンク '大阪大学' で検索 Full-Text@大阪大学/Uosaka を選択".
- PubMed:** A dashed box encloses the text: "阪大専用入口から入る必要がある 生命科学図書館のWebサイトからアクセス".

21

それがこの「Uosaka」といういちょうマークのアイコンです。

CiNii Researchも含めて、多くのデータベースでこのいちょうマークが表示されます。このボタンをクリックすることで、電子ジャーナルや紙の雑誌が阪大で使えるかどうかをチェックすることができます。なお、一部のデータベースではボタンの見た目が異なっていたり、ボタンではなくテキストリンク形式だったりするのでご注意ください。

Google Scholarでは、画面左上のメニューから設定を行うと、テキストリンクが表示されるようになります。

また、一番下のPubMedという医学系論文のデータベースでは、いちょうマークを表示させたいときは阪大専用の入口からアクセスする必要があります。生命科学図書館のWebサイトに、PubMedの阪大専用入口を用意していますので、そちらから入ってください。

ひとつ、CiNii Researchでの例を見てみましょう。

<https://cir.nii.ac.jp/crid/1521980704613472512>

こちらの論文は、先ほどのオレンジ色のリンクをクリックしても論文フルテキストが入手できないものです。ところが、「Osaka U」のアイコンをクリックすると、フルテキストへのリンクが表示されます。実はPDFファイルを利用できる論文なのです。こういったケースもありますので、データベースの検索結果から

UOsakaのアイコンをクリックして確認する、という癖をぜひ付けてください。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

 いちようマーク等を押すとこの画面に



The screenshot shows the 'Full Text Finder' interface. It includes a search bar, a list of search results, and several callout boxes with arrows pointing to specific features. The callouts are: 1. A pink box pointing to the 'Web上でフルテキストにアクセスする' link. 2. A green box pointing to the '大阪大学に冊子版があるか探す' link. 3. A blue box pointing to the '学外から文献を取り寄せる' link.

【Web上でフルテキストにアクセスする】
電子ジャーナル（契約 or フリー公開）があればリンクが表示される
※リンクの横に表示されている利用可能範囲に注意
例：1975-01-01 - 現在

【大阪大学に冊子版があるか探す】
リンクをクリックすると
阪大OPACを検索してくれる

【学外から文献を取り寄せる】
電子ジャーナルも紙の雑誌も無いときは
「ILLサービス」の利用を検討する

22

いちようマークのアイコンをクリックすると、「Full Text Finder」という画面に進みます。この画面について、もう少し紹介します。

画面は大きく5つの部分に分かれています。そのうち、特に注目していただきたい部分は全部で3つです。

1つ目が「Web上でフルテキストにアクセスする」という部分です。

ここで、電子ジャーナルが利用できるかどうかを判断できます。

リンクの横に表示されている利用可能範囲を確認してください。この範囲に含まれている巻号は、フルテキストを入手することができます。

「Web上でフルテキストにアクセスする」にリンクが表示されない場合は、「大阪大学に冊子版があるか探す」のところを見てみましょう。

リンクをクリックすると、蔵書検索（OPAC）の画面に移動します。

雑誌がヒットしたら、雑誌の詳細画面を開きます。その後はスライド16枚目で説明したように、「配架場所」と「所蔵巻号」欄をチェックして、読みたい論文が載っている巻号を所蔵しているかどうかを確認してください。

電子ジャーナルも紙の雑誌も無い場合は、その下の「学外から文献を取り寄せる」という手段を検討しましょう。

こちらの取り寄せサービスのことを、「ILLサービス」と言います。スライド25枚目からの「4. ILLサービス」で詳しく紹介します。

(参考) データベースへのアクセス方法

図書館Webサイトで「データベース」のタブをクリック



23

なお、スライド21枚目でご紹介した阪大契約データベースには、図書館Webサイトからアクセスできます。ご参考までにアクセス方法をご紹介します。

図書館Webサイトのトップページには、OPACの検索窓がありますね。こちらの検索窓の上にはいくつかタブがありますが、「データベース」のタブをクリックしましょう。

そうすると、よく使われるデータベースをまとめたプルダウンメニューや、データベースの一覧ページへのリンクが表示されます。

みなさんがまだ知らないデータベースがあるかもしれません。ぜひ目を通してみてください。

ここまでのまとめ

データベース検索結果からフルテキストを入手するときは・・・

①検索結果の本文リンクボタンをクリック

本文リンクが無いとき、リンク先で読めないときは、

② アイコンをクリック

電子ジャーナルも紙の雑誌もまとめて探せます



24

2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果から、フルテキストを入手する方法を紹介しました。

「UOsaka」アイコンをクリックして、電子ジャーナルや紙の雑誌が利用できるかどうかを確認する習慣をぜひつけてください。